

2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月11日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東  
 コード番号 2418 URL <https://www.tsukada-global.holdings>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 (TEL) 03-5464-0081  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績 (2021年1月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	21,116	23.5	△7,413	—	△6,864	—	△5,877	—
2020年12月期第3四半期	17,103	△60.9	△10,879	—	△10,797	—	△8,717	—

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 △5,641百万円( —%) 2020年12月期第3四半期 △8,898百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	△123.23	—
2020年12月期第3四半期	△182.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	91,320	20,796	22.6
2020年12月期	99,814	26,437	26.3

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 20,610百万円 2020年12月期 26,265百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00	—		
2021年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,500	19.9	△6,970	—	△6,680	—	△5,820	—	△122.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 ー社(社名) ー、除外 ー社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期3Q	48,960,000株	2020年12月期	48,960,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	1,259,834株	2020年12月期	1,259,834株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期3Q	47,700,166株	2020年12月期3Q	47,700,166株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報) .....	9
3. 補足情報 .....	10
(施行及び受注の状況) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症再拡大が経済活動及び雇用情勢に大きく影響し、個人消費の伸び悩みや渡航制限によるインバウンドの消失など、いまだ先行き不透明な状況で推移しております。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場及びウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供及び新型コロナウイルス感染症には万全の対策で取り組んでまいりました。

新型コロナウイルス感染症再拡大に係る4回目の緊急事態宣言は9月30日をもって解除されましたが、当下半期連結業績への影響は大きく、婚礼施行の来期以降への延期や平均ゲスト数の減少、渡航制限の影響によるホテル稼働率とレストラン利用客数の低迷、フィットネス会員数においては休会からの復会の伸び悩みと全セグメントにおいて多大な影響を受けております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、21,116百万円(前年同四半期比23.5%増)となり、利益面につきましては、営業損失7,413百万円(前年同四半期は営業損失10,879百万円)、経常損失につきましては雇用調整助成金及び休業・時短要請に応じたことによる各種助成金の受給により6,864百万円(同 経常損失10,797百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失5,877百万円(同 親会社株主に帰属する四半期純損失8,717百万円)と昨年同四半期から回復は見られるものの、引き続き大幅な損失の計上となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ①婚礼事業

当第3四半期連結累計期間においては、期間中の殆どが緊急事態宣言期間の中、婚礼施行件数が4,376件(前年同四半期比42.0%増)と継続する新型コロナ禍において売上高については底打ち感があるものの、1組当たり平均ゲスト数の減少により収益率が低下したことから損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は12,120百万円(同17.6%増)、セグメント損失は2,705百万円(前年同四半期はセグメント損失4,515百万円)となりました。

#### ②ホテル事業

当第3四半期連結累計期間においては、昨年に引き続き海外からの渡航制限の影響により宿泊・レストラン利用客や法人宴会需要が停滞しておりますが、東京オリンピック開催期間中については一部において一定の収益確保ができたこと、また、ホテル婚礼施行件数が761件(前年同四半期比88.8%増)と売上高は増加しましたが、利益面につきましては、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、総じて低稼働のまま推移したことにより損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は6,958百万円(同41.4%増)、セグメント損失は3,298百万円(前年同四半期はセグメント損失4,416百万円)となりました。

#### ③W&R事業

当第3四半期連結累計期間においては、英国式リフレクソロジーサロン「クイーンズウェイ」については、一部に政府からの休業要請等に応じた店舗もありましたが、集客については平時に戻りつつあります。また、総合フィットネスクラブ「BEST STYLE FITNESS」においては会員数の戻りが遅れておりますが、当セグメント売上高は増加し、利益面では損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,037百万円(前年同四半期比8.5%増)、セグメント損失は373百万円(前年同四半期はセグメント損失611百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ8,494百万円減少して、91,320百万円となりました。これは主に、借入金の返済及び親会社株主に帰属する四半期純損失の影響により現金及び預金が6,006百万円及び減価償却により有形固定資産が1,877百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ2,852百万円減少して、70,523百万円となりました。これは主に、未払法人税等が449百万円及び前受金が340百万円それぞれ増加しましたが、長期借入金（1年内返済予定含む）が3,009百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産総額は、前連結会計年度末に比べ5,641百万円減少して、20,796百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が5,877百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の実績及び進捗状況等を勘案し、通期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、2021年11月5日付で公表しております「2021年12月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,291	16,284
売掛金	816	576
有価証券	1,471	1,549
商品	107	192
原材料及び貯蔵品	481	360
その他	2,289	1,412
貸倒引当金	△30	△40
流動資産合計	27,427	20,334
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35,128	33,395
土地	11,929	12,182
建設仮勘定	505	548
その他(純額)	2,247	1,806
有形固定資産合計	49,811	47,933
無形固定資産		
のれん	2,076	1,818
その他	641	617
無形固定資産合計	2,717	2,435
投資その他の資産		
投資有価証券	4,665	4,643
敷金及び保証金	8,156	7,409
その他	6,976	8,434
貸倒引当金	△99	△105
投資その他の資産合計	19,700	20,381
固定資産合計	72,229	70,750
繰延資産	156	235
資産合計	99,814	91,320

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,283	1,119
短期借入金	1,789	2,061
1年内返済予定の長期借入金	3,985	11,373
1年内償還予定の社債	774	2,189
未払法人税等	32	481
前受金	2,940	3,281
店舗閉鎖損失引当金	275	56
資産除去債務	445	287
その他	5,675	5,442
流動負債合計	17,201	26,292
固定負債		
社債	6,947	5,535
長期借入金	42,237	31,840
退職給付に係る負債	393	415
役員退職慰労引当金	872	903
資産除去債務	4,498	4,521
その他	1,224	1,014
固定負債合計	56,174	44,231
負債合計	73,376	70,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	27,070	21,192
自己株式	△892	△892
株主資本合計	27,284	21,406
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△43	△52
繰延ヘッジ損益	△585	△590
為替換算調整勘定	△382	△144
退職給付に係る調整累計額	△7	△8
その他の包括利益累計額合計	△1,018	△795
非支配株主持分	171	185
純資産合計	26,437	20,796
負債純資産合計	99,814	91,320

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)
売上高	17,103	21,116
売上原価	18,070	19,260
売上総利益又は売上総損失(△)	△966	1,856
販売費及び一般管理費	9,912	9,270
営業損失(△)	△10,879	△7,413
営業外収益		
受取利息	115	87
匿名組合投資利益	154	175
助成金収入	585	508
為替差益	—	358
その他	192	151
営業外収益合計	1,048	1,281
営業外費用		
支払利息	320	343
有価証券運用損	362	—
その他	284	388
営業外費用合計	966	732
経常損失(△)	△10,797	△6,864
特別利益		
固定資産売却益	0	0
貸倒引当金戻入額	197	—
その他	13	—
特別利益合計	211	0
特別損失		
固定資産除却損	12	24
店舗閉鎖損失	43	3
減損損失	102	—
投資有価証券評価損	145	—
関係会社株式評価損	110	—
その他	79	—
特別損失合計	492	28
税金等調整前四半期純損失(△)	△11,077	△6,892
法人税等	△2,356	△1,014
四半期純損失(△)	△8,721	△5,877
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△8,717	△5,877

## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△8,721	△5,877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	85	△9
繰延ヘッジ損益	△91	△5
為替換算調整勘定	△118	131
退職給付に係る調整額	0	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△52	120
その他の包括利益合計	△176	236
四半期包括利益	△8,898	△5,641
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△8,890	△5,655
非支配株主に係る四半期包括利益	△7	14

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響については、当第2四半期時点で、当社グループの業績への影響が当連結会計年度末ごろまで継続すると見込んでおりました。ワクチン接種実績については現時点で2回目接種人数が70%を超え、新規感染者数も減少傾向にあることから、2021年9月30日をもって緊急事態宣言は解除されたものの、国民性から消費マインドや個人の動向については引き続き慎重な姿勢が継続し、当社グループ業績への影響は2022年度第2四半期ごろまで継続するとの前提に変更し、繰延税金資産の回収可能性の判断、固定資産の減損判定等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、更なる感染拡大により社会活動及び経済活動が停滞する事態となった場合、当連結会計年度の当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,305	4,921	1,877	17,103	—	17,103
セグメント間の 内部売上高又は振替高	443	109	8	561	△561	—
計	10,748	5,031	1,885	17,665	△561	17,103
セグメント損失(△)	△4,515	△4,416	△611	△9,544	△1,334	△10,879

(注) 1. セグメント損失の調整額△1,334百万円には、セグメント間取引消去47百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,381百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「婚礼事業」セグメントの一部の固定資産において収益性が低下した状態が続いており、当第3四半期連結累計期間において投資の回収が見込めないと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額102百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「婚礼事業」セグメントにおいて、グロリアブライダルジャパン株式会社及びその子会社2社の株式を取得したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より、同社及びその子会社4社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において864百万円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,120	6,958	2,037	21,116	—	21,116
セグメント間の 内部売上高又は振替高	792	194	26	1,013	△1,013	—
計	12,913	7,152	2,064	22,130	△1,013	21,116
セグメント損失(△)	△2,705	△3,298	△373	△6,376	△1,037	△7,413

(注) 1. セグメント損失の調整額△1,037百万円には、セグメント間取引消去25百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,062百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 補足情報

(施行及び受注の状況)

## (1) 婚礼施行実績

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	3,082	4,376	5,044
ホテル事業	403	761	717
合計	3,485	5,137	5,761

## (2) 婚礼受注状況

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)		前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)
セグメントの名称						
婚礼事業	3,462	6,898	5,580	7,542	4,864	6,338
ホテル事業	597	1,225	1,006	1,423	864	1,178
合計	4,059	8,123	6,586	8,965	5,728	7,516